

2013年10月12日（土）～14日（月）東北復興支援ツアーワーク

其の1（初日：中尊寺、毛越寺、巖美渓）

レポート by 熊本（写真：熊本、高橋雄、伊能、鵜飼、堀）

10月12日（土）から14日（月）の3連休で東北復興支援ツアーワークとして、初日：中尊寺、毛越寺、巖美渓、二日目：栗駒山の紅葉ハイク、三日目：猊鼻渓、震災被災地訪問（陸前高田）の予定で12名が参加した。参加者は川島さん、岡部さん、小山さん、能勢夫妻、高橋雄さん、堀さん、伊能さん、鵜飼さん、根岸さん、熊本と、リーダーの高橋文さんは初日の夜に須川高原温泉で合流する。



12日（土）は3連休のスタートで始発の東京駅は、大混雑で自由席は長蛇の列であった。

メンバーの皆さんには「やまびこ53号」指定席を確保。だが、熊本はコマチ型の車両（2席+2席）自由席に40分前に並び、余裕を持って席は確保できた。



東京駅出発（8:40）し、上野を出るころには満席になり立つ人が大勢いる。

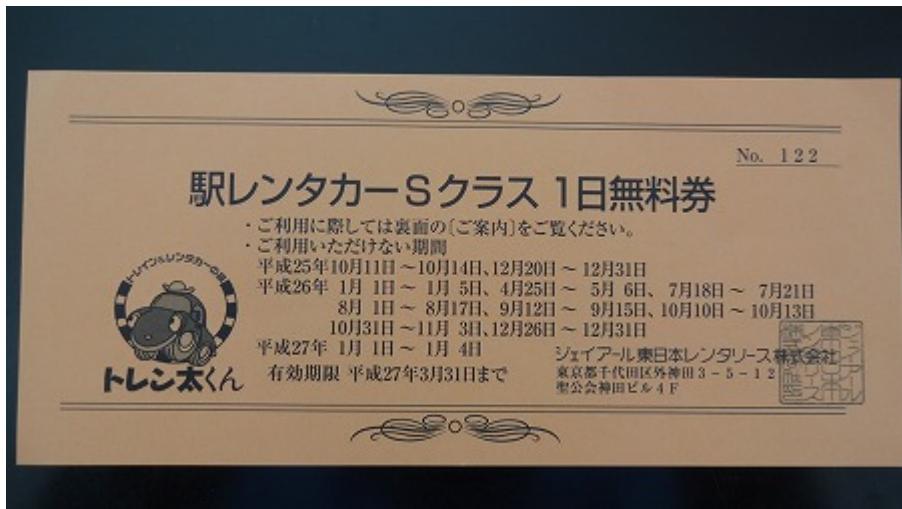
携帯が鳴った。岡部さんからだ。何を勘違いしたか、やまびこ53号でなく、55号（1時間後発車）を取っていたという。大宮からの乗車で、私のいる14号自由車両に乗るよう伝える。大宮からは勿論、座れなかったが、運よく宇都宮で降りる人の席が確保でき、一安心。



一関駅に定刻11:14に到着。

駅舎の並びにあるレンタカーで3台調達する。

ここで、ドライバーの一人である、堀さんがいない。探したところ、まだ改札口で駅員と話し中だった。何かと聞えば、今の新幹線にデジカメを忘れたと、手続き中であった。堀さんが忘れ物名人の得意技を早くも発揮してくれた。



レンタカー3台で、ドライバー雄さん、根岸さん、堀さんの3人が、籤を引いたところ、堀さんが特等賞を当て、Sクラス1日無料券をGET!

忘れ物名人は悪運も強かった。



駅から車で3分にある蕎麦屋（小松）に予約を入れてあった。

既に何回か使っている。今回は「カレー南蛮そば(ザ真っ黒)」を4人が食べたが、正直言って旨くなかった。やはり「岩のりおろし蕎麦」が良かったようだ。（3名が食す） 11:50



カレー南蛮（ザ・真っ黒）  
汁がなぜか真っ黒でとろみはない



小松で昼食の蕎麦を食べる。  
これから車で4号線を北上し、平泉に向かう。（12:30 出発）



平泉の世界遺産「中尊寺」入口に  
13:10 到着。  
平泉は仏国土（浄土）を表す建築・  
庭園及び考古学的遺産群として文  
化遺産として登録された。



中尊寺参道入  
口で記念の集  
合写真を撮る。

何故か、  
堀さんがいな  
い！



月見坂を金色堂に向かって進む。



月見坂の中間にある中尊寺本堂に入る。  
境内中央には立派な赤松があった。  
(13:15)



中尊寺本堂でお参り



中尊寺に初めてきたメンバーが、  
拝観料¥800でチケットを買い、  
国宝の金色堂を見学する。



既に見学済みの雄さん、岡部さん、小山さん、熊本は、近くにある白山神社の国重要文化財の能楽殿を見に行く。



白山神社の「茅の輪（払いの輪）」を潜ると汚れが取れ、赤子のように純真無垢な体に生まれ変わるそうだ。



弁慶が仁王立ちして義経を守ったという、弁慶堂を見学。堂内には、義経と弁慶が・・・  
写真撮影禁止のはずだったが・・・



中尊寺の主要な所を見学して、次は同じく世界遺産「毛越寺」に、車で、15分弱で着いた。



毛越寺の見学は¥500。

毛越寺は大泉ヶ池を中心とする浄土庭園が世界文化遺産として登録された。(14:40)



毛越寺庭園を代表する「池中立石」は約2.5mの高さがあり、震災では倒壊したが、復旧されていた。



毛越寺の史跡である南大門、嘉祥寺、講堂、金堂円隆寺、経樓、鐘樓、法華堂等は姿なく、「跡」があるだけで、寂しい。



毛越寺を後に、「厳美渓」に向かう。  
(15 : 10)



厳美渓は栗駒山を水源とし、岩手県一関市にある磐井川中流の渓谷であり、国の天然記念物に指令されている。



厳美渓の渓谷美



名物「郭公だんご」は対岸とワイヤーロープで吊った籠に料金を入れると、「郭公だんご(みたらし団子)」を同じ籠で届ける仕組みとなっている。



郭公だんごを雄さんが購入し、皆さんで頂いた。



厳美渓の岩疊で  
記念写真を撮  
り、本日の宿  
「須川高原温泉  
に向かう。

(16:00)



栗駒山の山道に入り始めところで、  
「名水 100 選の須川温泉水：ブナ  
の恵み」があり、一寸寄って一杯。  
ここから山道に入り高度を上げる  
と木々が色付き始めた。風が強く、  
横風が車を襲う。  
須川高原温泉に到着する頃は暗く  
なり、小雨が降り始めた。



須川高原温泉は、乳白濁の硫黄泉で、屋外の大露天風呂、屋内の浴場で入浴し、18:30 に夕食



山の中の温泉にしては豪華な料理で旨かった。

食後、再度温泉に入り、高橋文さんの到着を待たずに、明日の天候回復を祈りながら就寝。

~~~~~

この日、高橋(文)さんは、所属するオーケストラの演奏会が横浜であり、それに対応してから駆けつけてきた。予定では 21 時ごろ宿に到着するはずだったが、30 分遅れた。以下はその顛末。

### 栗駒山紀行（番外編）

レポート by 高橋（文）

10月12日、横浜での所用を済ませ、カミさんに持ってきてもらった山の装備に着替えて、東京から新幹線で一ノ関に20時ちょっと前に到着した。駅を出ると今日の横浜では味わえなかつたちょっとひんやりした空気にホッとする。

予約していたレンタカー会社の方に迎えに来てもらい、ナビを須川高原温泉にセットして8時過ぎに出発した。

342 号線をまっすぐ行けば 9 時過ぎには辿りつけると思っていた。道路表示の須川高原温泉まで残り 30 キロを切るのに随分時間がかかった。

やはりかなりの距離がある。慎重に運転しないと…。

突然ナビが左折を指示してきた。この道をまっすぐ行けば辿り着くはず、と思っていたが、ナビに従うことにしてた。

道は舗装されていなかったが、道幅は広目だった。しばらく走っていると、フロントガラスに水滴が付くようになった。天候の心配は全く必要ないと思っていたので「エーッ」。見上げると上弦の月が煌々と照っているのに雨とは…

ひょっとして「狐か狸」の仕業？という考えが頭の中をよぎった。

周囲に人家はなく、道はますます寂しい風景になってきた。突然目の前に鉄の柵が現れた。この先は進めないが、ナビは右折を指示してきた。この道は今まで来た道よりももっと狭く、枯れかけた芒がボウボウ生い茂っている。これが山中なら絶対引き返すべきだが、600 メートルで抜けられるとの表示にもう少し走ってみることにした。何か現実とは違う世界に引き込まれて行くような、そして何が起きるんだろう、という思いに少しドキドキしてきた。

道は車体が地面に擦りそうになるほどデコボコしている。ただ走りながら U ターンできそうな場所はチェックして行った。しばらく走っていると、溝が道路を横断していてこの先は進めない所に来た。ここでバックして、チェックしていた場所で U ターンし 342 号に戻った。ここでナビは、今度は今まで走ってきた一ノ関方面に行けとのこと。流石にこれは無視して反対方向に向かった。須川高原温泉の表示も現れこの後は安心して走ったが、雨、風は強くなっているようで、道路に溜まった濡れた落ち葉も滑りそうな感じがする。

すれ違うのが大変そうな場所が何箇所かあったが、時間が遅いせいもあって幸い対向車は来なかつたのはありがたかった。

9 時半頃にホテルに到着。ロビーにいた根岸さんを見つけほっとした。

翌日レンタカーカー会社にこのことを話したら、ナビには東日本大震災直後の情報が入っており、この時は 342 号線も何箇所かで寸断していたとのことだった。

一人というのは心細さが増しますね。